

Library News



大山崎中学校図書館

令和5年9月

猛暑の夏休みが終わりました。

みなさんは今年の暑い夏をどのように過ごされたでしょうか？

国連の事務総長の「地球沸騰化の時代」という言葉が世界に衝撃を与え、改めて温暖化や環境問題について関心を持った人もたくさんいると思います。図書室にも環境問題を考える本がたくさんあります。この機会にぜひ読んでみてください。



選書会の本が届いています。

7月3日、放課後図書室で選書会を実施しました。選書会では、まず本屋さんが中学校の図書館にふさわしいと思う本を、新刊を中心に600冊ほど選んで展示してくれます。図書委員さん、生徒会本部役員さん、先生方が本を実際に手に取って、学校に置いてほしいと思うものにしおりをはさみます。その中から予算に応じて本を購入します。中学校の図書館に置く本を生徒が中心となって選ぶという年に一度の行事です。選んだ本は本屋さんがラベルや蔵書バーコード、ブッカーと呼ばれるカバーをつけて納入してくれます。そのため少々時間がかかります。7月に注文しましたが、図書室にはまだ一部しか届いていません。順次届く予定ですのでまた読みにきてください。

新着案内



『モノクロの夏に帰る』 額賀 澤

モノクロの写真をAI技術でカラーにした写真集、『時をかける色彩』にまつわる4つのお話し。写真集のPOPを手掛けることになった書店員の飛鳥には祖父の戦争体験をねつ造した苦い過去があり……続く2話目はそんな飛鳥のPOPを読んで本を手にした保健室登校の中2女子の夏休みの自由研究の話。私たちは太平洋戦争体験者から直接話を聴ける最後の世代、という言葉が胸に刺さります。



『永遠の夏をあとに』 雪乃 紗衣

田舎町で暮らす羽矢拓人は神隠しにあったことがある。2か月間行方不明で発見されたときは当時の記憶を失っていた。それから6年後の1999年夏、母の入院、弓月小夜子のことを覚えていないのか?と尋ねる若い男、そして突然現れた若い女性。サヤと呼んでいたというかすかな覚えがあるものの拓人はどうしても思い出すことができない。そうして小学校生活最後の夏休みが始まったが……



『成瀬は天下を取りに行く』 宮島 未奈

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う。」突拍子もないことを少し変な口調でしゃべる成瀬あかりの中学時代からの約4年間を描く連作短編集。とにかくこの主人公がぶっとんだ性格で、この魅力は読まないとわからない種類のもの。デビュー作にして9万部突破、舞台となった滋賀県の本屋さんでは売り切れ続出、という快進撃をしている小説です。



『賢治童話ビジュアル事典』 中地 文監修

小学生の頃宮沢賢治の童話を読むと結構難しいと思ったことはありませんか? 幻燈、アセチレンランプ、モリブデン、賢治の生きた明治大正時代はあたりまえだった物がどんなものなのかちょっと想像できない…。この事典はそんな読者のための事典であり、昔のくらし事典でもあります。たくさんの写真と解説とともに賢治のどの作品に登場するかが書かれています。眺めているともう一度賢治の童話を読みたくなくなってきます。



司書のひとりごと 昨日の本棚から

『川の名前』 川端 裕人

夏休みの本、と聞いて真っ先に思い浮かべるのは『川の名前』です。小学5年生の菊野脩の夏休みの物語。脩は幼い頃から世界を飛び回る父に連れられて世界を転々としてきた少し大人っぽい男の子。彼はある日学校の近くの川で見慣れぬ生き物を発見します。父と共に自然を相手に育った脩はがぜん興味を持って、その生き物の正体を突き止め、観察し始めます。生き物をめぐってクラスメートとのいざこざ、生き物を利用しようとするテレビ局や台風の接近による川の増水と次々と難局が訪れ……脩が仲間と河口をめざすところは、一気読み必至。川の名前というタイトルの意味もまた心に深く残ります。